

天理市埋蔵文化財センターだより Vol.15

第一部

平成23年度 発掘調査速報展

ノムギ古墳

柳本藩邸遺跡
織田家の家紋瓦

第二部

やなぎもとはんてい

柳本藩邸遺跡の考古学



◎平成24年度冬の文化財展

第一部 平成23年度発掘調査速報展

第二部 柳本藩邸遺跡の考古学

平成24(2012)年12月8日(土)~23日(日)

※ 9:00~17:00

※ 10日(月)、17日(月)は休館

天理市文化センター
1階展示ホールにて

◎文化財講演会と展示解説

12月16日(日)14:00~

1階展示ホールにて

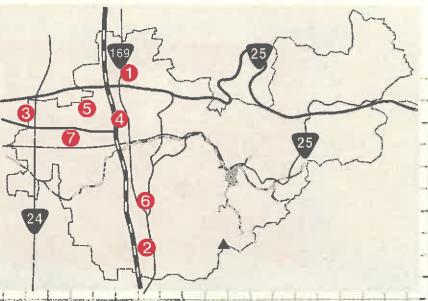
天理市教育委員会文化財課がこれまでに実施した市内の遺跡の発掘調査により、多くの成果が得られてきました。それらの成果の一部について、平成18年度より夏と冬、年2回の文化財展示をおこない、市内の埋蔵文化財について理解を深めていただけるように努めています。

今回の「センターだより」は平成24年度冬の文化財展の内容にあわせ、「平成23年度発掘調査速報展」と『柳本藩邸遺跡の考古学』の2部構成とし、これまでの発掘調査による成果をご紹介いたします。

第Ⅰ部 平成23年度発掘調査速報展

天理市教育委員会文化財課は市内遺跡を対象とした発掘調査を実施しています。今回は平成23(2011)年度におこなった7件の発掘調査の成果をご紹介いたします。

- ①柿本寺跡第3次 ②柳本藩邸遺跡第12次 ③中町西遺跡
- ④山の辺第1工区 土地区画整理事業に伴う調査
- ⑤名阪道路(天理地区) ⑥ノムギ古墳第5次 ⑦平等坊・岩室遺跡第34次



ノムギ古墳 第5次

のむぎこふん

⑥



期間 平成24年1月12日～
平成24年2月29日



ノムギ古墳は大和古墳群の北端に所在する全長63mの前方後方墳です。大和古墳群基礎調査の一環として平成21年度から範囲確認調査をおこなっています。

平成23年度に実施した第5次調査では、後方部墳丘上に調査区を設けました。土層の観察の結果、自然の尾根筋上に2m以上の厚い盛土をおこなって古墳を築造していることがわかりました。埋葬施設については今回の調査では確認できませんでした。



見つかった掘立柱建物の柱穴

柿本寺跡 第3次

しほんじあと

①



期間 平成23年5月30日～
平成23年6月22日

柿本寺跡は奈良時代の創建と考えられる古代寺院跡の一つです。寺域の西半で集合住宅建設に伴い発掘調査を行い、掘立柱建物1棟を検出しました。建物はほぼ正方位に建てられており、柱穴から奈良時代末～平安時代初頭の土器が出土したことから、柿本寺跡に関する施設と考えられます。また、建物の南方では地形が谷状に落ちており、谷を埋めた地層には周辺の古墳から流れ込んだとみられる埴輪片が多く含まれていました。

倉庫建設に伴う調査で溝と自然流路が確認されました。調査地のすぐ西側では古墳時代の居住域が以前の調査で見つかっています。



山の辺第1工区 土地区画整理事業 に伴う調査

やまのべだいいちこうく
とちくかくせいりじぎょう ④



期間 平成23年9月6日～
平成23年9月26日

土地区画整理事業に伴って田部町内で発掘調査をおこないました。現地は旧桜井線の敷設に際して1.8mも造成されていましたが、その下から近代以前の耕作跡や縄文時代ごろの河川跡などが見つかりました。

中町西遺跡

なかまちにしいせき

③



期間 平成23年9月5日～
平成23年9月12日

喜殿町内で調査をおこないました。奈良～平安時代に条里制の坪境を区画した溝が見つかり、縄文～古墳時代の遺物も出土しました。



平等坊・岩室 遺跡 第34次

ひょうどうぼう・いわむろいせき ⑦



期間 平成24年1月13日～
平成24年2月2日

道路拡幅工事に伴い平等坊町内で調査をおこないました。

調査地は弥生環濠集落の北西縁辺部にあたり、低地帯が広がっていたようです。大型の土坑が見つかっており、木製品の加工に関する貯蔵穴であった可能性があります。

平成23年度 名阪道路 (天理地区)

めいはんどうろ(てんりちく) ⑤



期間 平成23年11月24日～
平成24年1月27日

柳本藩邸遺跡 第12次

やなぎもとはんていいせき

個人住宅建設に伴い柳本小学校の東側で
発掘調査をおこないました。柳本藩邸遺跡
における最新の調査です。

江戸時代の遺構は少数でしたが、調査区
内で見つかった中世末前後の溝からは土師
器皿や瓦質土器、土釜などがまとまって出
土しました。周辺におけるこれまでの調査
でも江戸時代以前の遺構が見つかっており、
中世楊本(後の柳本)の広がりを示す資料と
いえます。



期間 平成23年7月5日～
平成23年7月17日



土釜の出土状況

第Ⅱ部 柳本藩邸遺跡の考古学

柳本藩邸遺跡は江戸時代の柳本藩陣
屋跡を中心とする遺跡です。

大和国式上・山辺の二郡を治めてい
た織田長益(有楽斎：織田信長の弟)は、
元和元(1615)年、その所領を四男長
政[戒重藩祖→芝村藩(現在の桜井市)]と
五男尚長に分けました。柳本に入った
織田尚長はこの地に藩邸を構えて柳本
藩一万石の本拠とし、その後柳本藩は
明治4(1871)年の廢藩置県までこの
地を治めました。

嘉永7(1854)年に成立した『柳本陣屋絵図』は当時の様子を今に伝える貴重な資料です。絵図によ
れば、陣屋は北は黒塚古墳、南は藩主織田家の菩提寺である専行院までを含んでいたようです。

柳本藩邸遺跡の遺構



柳本藩邸の遺構(第4次調査)

中世楊本の時代 柳本藩邸遺跡におけるこれまでの調査では、江戸時代以前の楊本(後の柳本)の様子を物語る資料が見つかっています。江戸時代の陣屋は、この地に勢力を誇った中世の在地土豪である楊本氏の城郭跡を敷地に利用したようです。

柳本藩の時代 藩邸は寛永年間(1624～1644)に建築が始まったといわれ次第にその姿を変えていきます。もともと「御殿」の周辺には自然の谷地形が多く残っていたようですが、次第に土塁や石垣が整備されていったことが発掘調査により確認されました。

その後藩邸は文政13(1830)年の火災によって焼失しますが、天保15(1844)年に再興され、一部の建物は昭和40年代まで柳本小学校校舎として利用されてきました。現在は権原神宮に移築保存され、「旧織田屋形」として国の重要文化財に指定されています。柳本小学校内での発掘調査では、文政の火災後の整地層と考えられる土層から多量の瓦や陶磁器が見つかっています。

柳本藩邸遺跡の遺物

柳本小学校周辺における調査では、織田家の家紋である木瓜紋をあしらった軒丸瓦が出
土しています。藩邸で利用されていた瓦であると考えられます。

このほか陣屋内からは17世紀から19世紀にかけて、肥前系磁器を中心に瀬戸、美濃系
や京焼系など多様な製品が出土しています。



織田家の家紋瓦

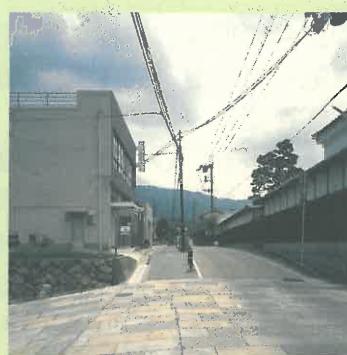


出土した陶磁器

現在の柳本

現在の柳本にも江戸時代の陣屋の地割が残されています。かつての大手筋にあたる道路沿いには江戸時代からの石垣が部分的に残っています。

黒塚古墳は楊本氏により中世の城郭として利用されたのち、陣屋の一部に取り込まれました。古墳の周囲の池にも江戸時代以来の石垣が一部現存します。



現在の大手筋



■柳本

出動！発掘現場レポート!!

平成24年度上半期の調査

天理市教育委員会は平成24(2012)年度上半期に発掘調査を7件実施しました。ここではその成果をいち早くお知らせいたします。

■山の辺第1工区土地区画整理事業に伴う調査

田部町内で調査をおこないました。南側で検出してきた縄文～古墳時代の谷地形の肩となる安定的な地盤を検出しました。

■柿本寺跡第4次

宅地造成に伴い櫟本町内で調査をおこないました。柿本寺の旧境内において石組みによる池など中世の庭園遺構が確認されました。

■成願寺遺跡第19次

携帯電話基地局建設に伴って萱生町内で調査をおこないました。中世の耕作痕跡や奈良～平安時代の谷地形が見つかりました。

■小路遺跡第4次

宅地造成に伴って調査をおこないました。隣接地の市道建設に伴う調査時と同様に、古墳時代の居住域の一部が見つかりました。

■平成24年度 名阪道路(天理地区)

[下半期も調査を継続]

道路拡幅に伴って喜殿町内で調査をおこないました。古代の官道である中ツ道の東側溝とみられる溝を確認し、北側隣接地で権原考古学研究所が実施した発掘調査と同様の成果が得られました。

■ノムギ古墳第6次

昨年度の後方部に引き続いて今年度は前方部の発掘調査をおこない、前方部の形状を知る手がかりが得られました。

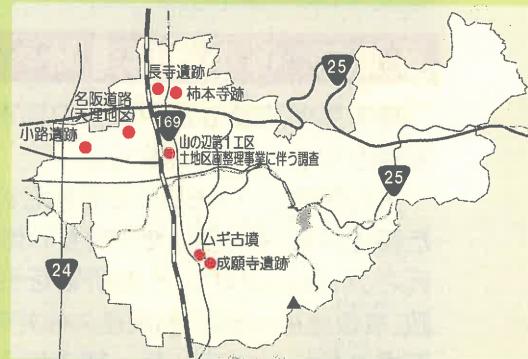
■長寺遺跡第18次

宅地造成に伴って櫛町内で調査をおこないました。弥生時代中期ごろの溝や土坑のほか、飛鳥時代の溝が検出されました。

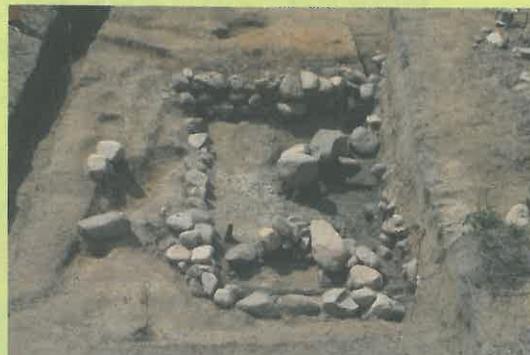
平成24年度の調査成果は
来年度の文化財展で
展示するよ！



※「天理市埋蔵文化財センターだより」Vol.16は、平成25年夏発行予定です。
お楽しみに！！



■平成24年度上半期の調査遺跡



■柿本寺跡第4次
見つかった石組みによる池



■小路遺跡第4次
調査区全景(西から)

発行◆天理市教育委員会 文化財課
天理市埋蔵文化財センター
〒632-0017 奈良県天理市田部町320
Tel・Fax 0743-65-5720
印刷◆(株)天啓